

1. 技術の起源

- ・ 二足歩行 — 自由な手 — 道具の使用 — 労働

社会的協力の必要性

2. 道具とは

- ・ 道具であるための条件 (岩城正夫『原始技術史入門』)

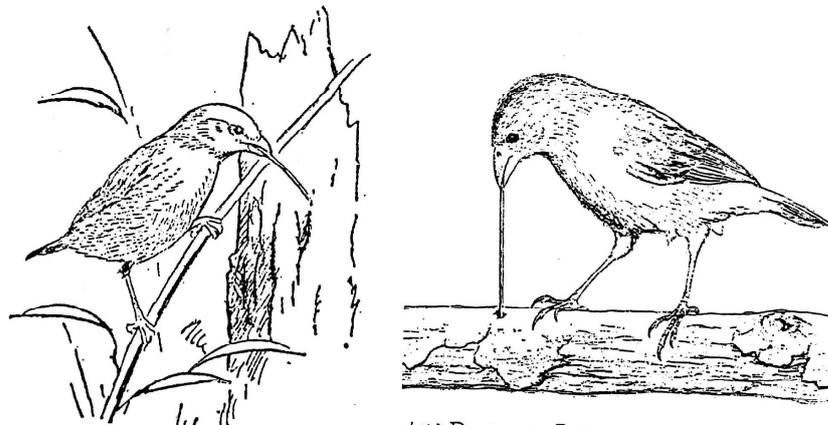
(1) 道具は目的を達成するための物的手段である。

(2) 必要なときには即座に利用できるが、不要なときにはいつでも手放すことができるなければならない。

- ・ 道具を使用するのは人間だけか。

K. P. Oakley : *MAN THE TOOL-MAKER*

「人類とは、単に道具を使用するだけではなく、道具を生産するものである。」



ダーウィンスズメ

左はD. ラック『ダーウィンフィンチ』より、
上は写真(ライフ『進化』掲載)より模写

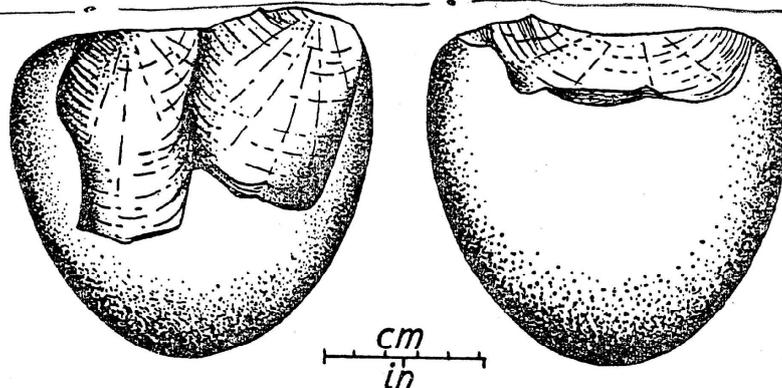


図5-2 礫石器

(C. シンガーほか著, 平田寛ほか訳編: 増補技術の歴史 1巻, 筑摩書房, 1977)

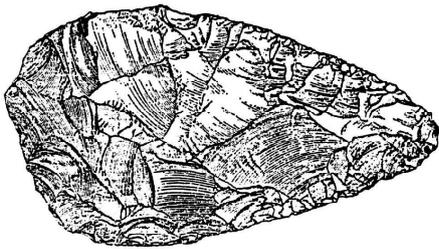


図5-3 石核石器

(C. シンガーほか著, 平田寛ほか訳編: 増補技術の歴史 1巻, 筑摩書房, 1977)

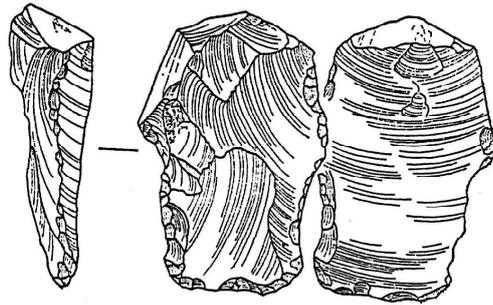


図5-4 剥片石器

(R.J. プレイウッド, 泉靖一他訳: 先史時代の人類, 新潮選書, 新潮社, 1969)

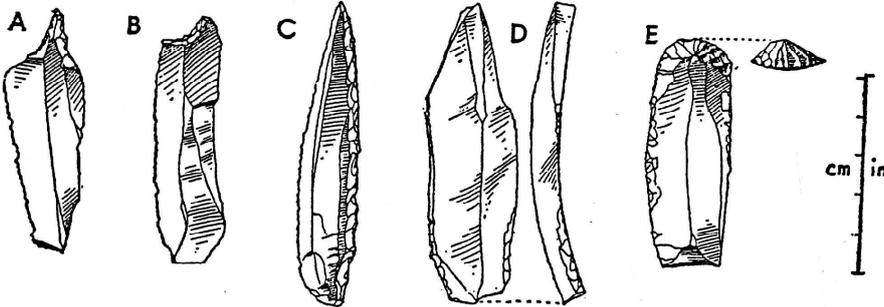


図5-6 石 刃

(C. シンガーほか著, 平田寛ほか訳編: 増補技術の歴史 1巻, 筑摩書房, 1977)

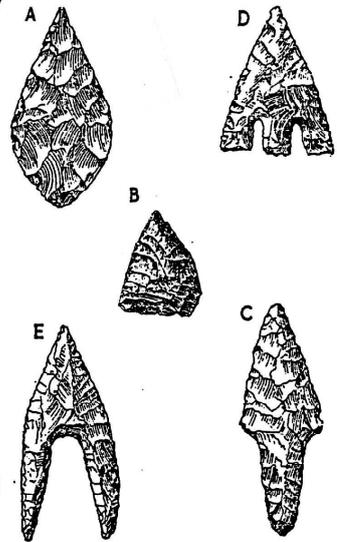


図5-8 石 鍬

(C. シンガーほか著, 平田寛ほか訳編: 増補技術の歴史 2巻, 筑摩書房, 1977)

先史時代の技術発達の基本段階

時 代	工 作	時 代	石 器
前期旧石器時代	—	～紀元前40万年	礫石器～礫石器
	シェレアン	紀元前40万～10万年	石核石器・チョッパー
	アシュレアン ムステリアン ルヴェロワジアン	紀元前10万～4万年	剥片石器 亀形石核石器
後期旧石器時代	マグダレニアン ソリュートレアン オーリニヤシアン	紀元前4万～1万2000年	石刃 (骨角器)
中石器時代	アジール タルドノア	紀元前1万2000～7000年	細石器 矢鏃
新石器時代	初期新石器	紀元前7000～4000年	柄のついた用具 (土器)
	後期新石器	紀元前4000～3000年	複合用具 農耕用具

【石器の発達】

- ①礫石器 ②石核石器 ③剥片石器
④亀型石核石器 ⑤石刃 ⑥細石器 — 石鍬

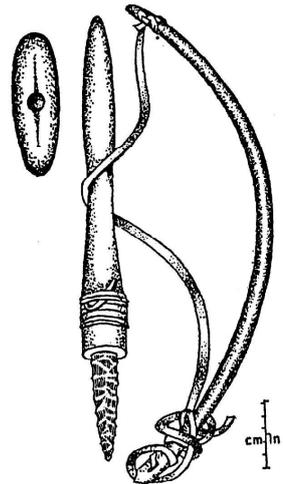


図5-11 弓ギリ

(C. シンガーほか著, 平田寛ほか訳編: 増補技術の歴史 1巻, 筑摩書房, 1977)

1. 道具の発達

1. 道具の機能

- 原動部
- 作業部
- 伝導部



2. 道具の発達の可能性 …… 複合道具の出現 Ex. りり犁

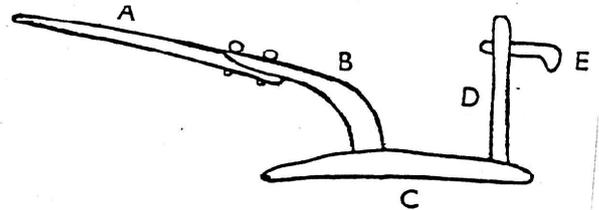


図 43 ギリシアすきの図解。(A) 引き棒, (B) すきながえ, (C) 犁体, (D) 犁梢, (E) 取手。



図 45 ギリシアのすき。黒絵の模様のある、ニコステネスの杯による（前6世紀）。

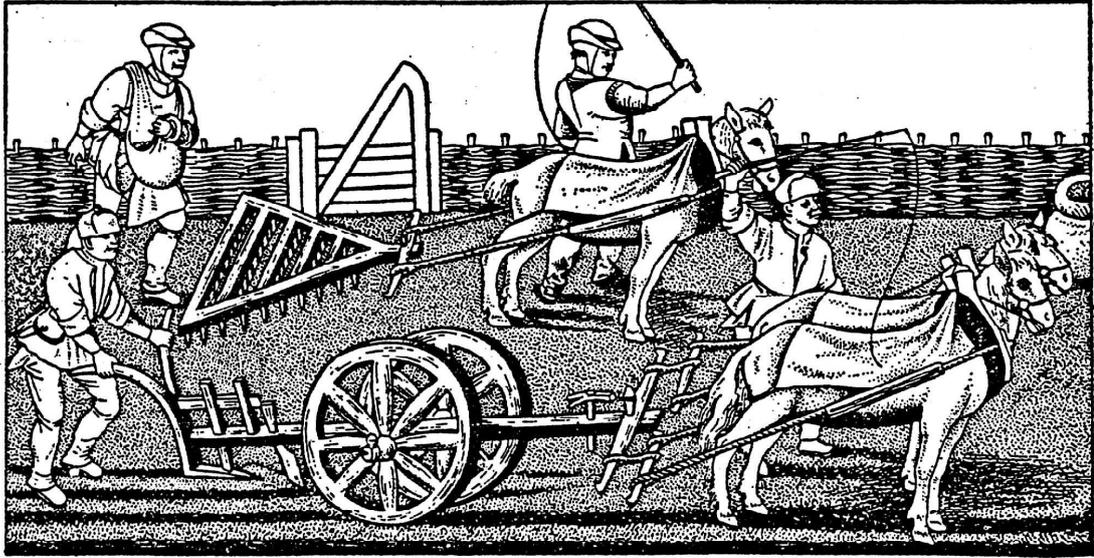


図 59 ウマの牽くすきと三角形のまぐわ（フランドルで書かれたヴェルギリウスの『農事詩』による、1473年）。

2. 農耕道具の発展

・ 鋤 → 犁

・ 農業、牧畜の経験の蓄積

・ 社会的分業の成立

手工業の独立 — 道具（工具）をつくる専門家の出現

【課題】

1. 各種道具の制御機能と動力機能を調べ、比較してみよう。
2. 社会的分業の成立と道具の発達の間を関係を考えてみよう。